

保育施設基本情報_月島聖ルカ保育園様

| | |
|---|---|
| 園・施設名 | 社会福祉法人ひかりの子月島聖ルカ保育園 |
| 経営主体 | 社会福祉法人ひかりの子 |
| 所在地 | 〒104-0052 東京都中央区月島4丁目5-8 |
| 定員 | 102名 |
| 理事長名 | 上田 亜樹子（うへだ あじゅこ） |
| 園長名 | 高久 真佐子 |
| 採用担当者 | 高久（たかく） |
| 電話番号 | 03-3533-6231 |
| 保育理念 保育方針 保育目標 | 保育理念 キリスト教の信仰・精神に基づき、すべての子どもを慈しみ、心身ともに健やかな成長を願って保育をする。保護者が喜びをもって子育てができるよう支援をする。職員、保護者、地域の方々との対話を大切に、互いに理解し、助け合う。 保育方針 子ども自身が自ら取り組み、工夫を生み出す力を身に着ける。子どもたち一人ひとりが愛されている存在であることを実感する。 保育目標 なんだろう・どうして・やってみようという気持ちを持つ。友だちといること、協力することを楽しむ |
| 保育環境 | 1954年に保育認可を受け、さらに、2010年には経営母体が宗教法人から社会福祉法人に変更した保育園です。東京都中央区内で数少ない、土の園庭がある保育園です。砂場で砂遊びをしたり、井戸から水を出して泥んこ遊びをしたり、園庭中央の大型遊具では、滑り台やターザンロープなどがあり、子どもたちは、毎日、体を思いっきり動かして遊んでいます。また、初夏にはビワや山桜桃ウメが実をつけ、子どもたちは木にのぼり、果実を取り、自由に食べています。 互いの保育室の仕切りは明確でなく、互いの活動が感じられ、互いの保育室への行き来ができます。 幼児クラスには、地下や、ロフト、大型遊具があり、それぞれの場所で、保育士が工夫を凝らして遊びの展開をしています。幼児保育室は自由に行き来できる環境でありながら、互いの活動の保証はするようにしています。縦割りの活動もとり入れ、異年齢児が互いに助け合う姿もあります。 |
| ホームページURL | https://tsukishimaseiluka.wixsite.com/seilukahoikuen |
| 事前質問回答 | 《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。 |
| | 子どものより良い成長発達を促すための環境(人的・物的・場所)を整える事が、保育だと考えています。 子どもとのより良い関係を構築し、その上で、子どもの成長発達にあった活動を選び、ねらいをもって働きかけをすることが大切です。そして、子どもの成長段階を正しく見極め、子どもにあった活動を行うことが保育の質につながるものとなります。 与えられた環境の中で、いかに子ども一人一人にあったものを提供できるかが、子どものより良い成長を促すことになるでしょう。 一人一人に合った保育を理解し、提供するためには、保育士自身の豊かさが必要だと思います。 |
| | 「保育の質」の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。 |
| | 保育の質に上げているように、保育士自身の「豊かさ」「社会人としての行動」が保育に反映してくると思います。保育の質の向上のためには、一人ひとりの保育士の成長が不可欠です。まず、自分自身を正しく知るためチェックリストの記入をします。そして、自分の強み弱みを知り、今年度はどのように成長していきたいかを考え、目標を立てます。その目標に到達するために、毎月スモールチャレンジをしていき、毎月のチャレンジシートを記入してもらいます。 保育の実践に関しては、主任が各クラス日々の保育を見て、必要に応じてOITを行うこともあります。また、他クラスの保育、先輩保育士の保育を見る機会なども作り、子どもの成長や、保育士の関わり方など、見て学んでほしいと思っています。 月1回の「カリキュラム会議（10名弱のグループワーク）」において、保育についての意見交換が行われ、それぞれの保育士が、自分の保育について自由に意見を述べる場を作っていると考えています。経験年数に応じた、外部研修も参加しています。 |
| | 学生の就活において「職員同士の“人間関係”」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。 |
| 仲良しこよしの関係を築く場ではないことを前提としています。そして、「保育」について、互いに高めあう場所であってほしいと願っています。まず、年齢経験に関係なく、人として互いに尊敬する心を持ち接することは、キリスト教の精神に則ったことで、子どもに対しても同様で、本園で大切にしていることです。そのうえで、様々な人がいることを知り、気の合う人もいれば、気の合わない人もいますが、保育の質の向上や、保育園の発展のために常に同じ方向を向いていることを大切にしています。入職時の右も左もわからない人のために、入職1~3年目の職員がチューターとして寄り添ってくれます。 | |
| 乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。 また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。 | |
| 本園にとって「子どもに寄り添うこと」の理解をすることから始まります。子どもにとって信頼できる大人とは何か大切です。甘やかしてくれる、常に言うことを聞いてくれる大人が、子どもと望ましい関係を築くものではありません。また、保育者の関りは、子どもの成長に合わせて、変わってきます。乳児期にはスキンシップを十分に取って、子どもたちの思いが伝わっていると感じられるかわりをする中で、子どもは大人たちに好感を抱きます。幼児期には、ともに考え、ともに悩んでくれる大人を信頼できる大人と認識してくれるのではないのでしょうか？安易に答えを与えられたり、困難を取り除いてくれることからは信頼関係は生まれにくいと思います。子どもの成長に合わせた関りも、話し合いの題材として、カリキュラム会議で取り上げることもあります。 | |
| 生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。 | |
| 一人ひとりの発達に応じたかわりをするからです。2歳児クラスは幼児クラスへの移行期になります。登園時の支度（連絡ノート、口拭きタオル、ルーパタオルなどを所定の場所に出す）は、進級当初は1歳0歳クラス同様、保護者にやってもらっていましたが、次にあえて、保育者が行い、子どもたちが、登園したら何をやるのかを知り、登園時の支度に興味を持てます。そして、やってみようという思いが出てきた子から、登園時の支度をできるようになり、次の段階では、登園時の支度をできるよう、誘い掛けることもあります。3歳児の着への移行も子どもたちには、箸、スプーン、フォークなどを選択できることから始め、箸の扱い方等も個別に知らせていき、子ども自身も納得したうえで、完全に箸へと移行していきます。子どもたちの発達を考え、年間の生活習慣の目標を各学年で持ちつつ、導入時期等を前段階も踏まえて考えていきます。 | |
| 学生へのメッセージ | 保育士資格を手にして、社会に出ようとしている皆さんへ、保育士資格を手にした=保育士になったわけではないことを知ってください。わからないことが沢山あったり、できないこともたくさんあると思います。数十年保育士資格を有している私にとっても、完成したと思えることはありません。時代の変化に伴い変わっていることもありますし、日々学ぶことが沢山あります。保育の現場に出ること、自分自身が成長できることは絶対です。自分で考え、行動することで人間的に成長できる現場だと思います。学べることが満載の保育の現場へ皆さんが興味を持ってくださることを望んでいます。 |